お薬とお口の関係

高齢期シリーズ vol.6

歯科でよく用いられる薬

痛み止め（消炎鎮痛剤）

痛みを弱くする作用がありますが、飲めば全く無痛になるということではありません。もう少し効き目が欲しい時には、ついつい飲みすぎる傾向になりがちですが、量を飲みすぎると腹痛などの副作用が起こる可能性があるため注意が必要です。

うがい薬（含嗽剤（がんそうざい）・洗口剤（せんこうざい））

含嗽剤は口の中やのどの奥を消毒し、清潔にするために上を向いてガラガラとうがいする場合に使用します。洗口剤は歯や口の粘膜を清潔にするために口に含んでクチュクチュと洗口する場合に使用します。

化膿止め（抗菌薬・抗生剤）

感染した細菌が増殖しないように作用し、感染症を治癒させます。歯科では、親知らず周囲や歯肉が腫れた時、抜歯後の感染予防などに処方されることが多いです。

抗菌薬の中途半端な飲み方は耐性菌（抗菌薬が効きにくい菌）を作りやすくするとも言われているので、最後までしっかりと飲みましょう。

軟膏剤

口腔用ステロイド製剤が口内炎の治療等に処方されます。

飲み薬はいつ飲む？

※飲むタイミングは必ず医師、歯科医師、薬剤師の指示に従いましょう。

(1) 食前

・食前30分位とされています。ある種の経口糖尿病薬、漢方薬、吐き気を抑える薬などは食前に飲みます。

(2) 食直前

・食事をする直前に飲みます。ある種の経口糖尿病薬などは30分位前に飲むと低血糖を起こし、食後に飲むと効果がないことから、食直前に飲みます。

(3) 食後

・食後約30分以内とされています。歯科では化膿止め（抗菌薬）、痛み止め（消炎鎮痛剤）などが食後服用として処方されることが多いです。

(4) 食直後

・食事をした直後（約５分以内）に飲んでくださいという意味です。胃が荒れやすくなる薬や食事と一緒に飲むと吸収が良くなる薬などは食直後に飲みます。

(5) 食間

・食事と食事の間という意味で、食後２時間を意味します。食事中ではありません。いわゆる空腹時に服薬する意味です。

(6) 頓服、頓用

・「頓服」は「必要に応じて飲む」、「頓用」は「必要に応じて用いる」という意味です。飲み薬は頓服、軟膏・うがい薬などの外用薬は頓用となります。

歯科医療機関を受診する際にも必ずおくすり手帳を持参しましょう！

重要!

歯科医療機関でも「おくすり手帳」はとても重要です。
血液をサラサラにするお薬を飲んでいる場合、出血を伴う処置には通常以上の注意が必要になります。
また、処方するお薬との飲み合わせやアレルギーも考慮しなければなりません。
喘息の方は歯科の処方する痛み止めで発作が出る可能性が高まることがあります。
より安全な歯科治療のためにも受診時は必ず「おくすり手帳」を持参しましょう！

お薬を飲むことで起こりうるお口の中の副作用

歯肉肥大・歯肉増殖

歯周病のように膿をもって腫れるのではなく、歯肉の線維性組織を中心に歯肉が増殖する病気です。

●歯肉肥大・歯肉増殖を引き起こすことのある薬剤

- 抗てんかん薬（けいれん止め）のフェニトイン
- カルシウム拮抗薬（降圧薬の一種）のニフェジピン
- 免疫抑制剤のシクロスポリンなど

●若い人ほど、また服用量が多いほど重症になる傾向があります。

●歯面に歯垢（デンタルプラーク）が多いと重症化することが知られています。

●症状

歯間乳頭（歯と歯の間）の歯肉が少し腫れた状態。

歯が完全に隠れてしまった状態。

●対処方法

薬の服用を中止すると改善する場合がありますが、てんかん治療薬などは中止できない場合もあるので、お口の中をきれいに保つことが第一になります。歯肉の肥大によって歯みがきができない場合は、歯肉を切る「歯肉切除術」を行う場合もあります。

口腔乾燥症

唾液の分泌が低下して、お口が乾いた状態のことです。

●口腔乾燥症を引き起こすことのある主な薬剤

- 抗アレルギー薬
- 抗うつ薬
- 抗不安薬
- 抗パーキンソン病薬
- 降圧薬など

●症状

軽度では口の中がネバネバしたり、ヒリヒリしたりします。歯垢が増加して口臭やむし歯の原因にもなります。重度になると、強い口臭、舌表面のひび割れ、痛くて食べ物が食べにくい、会話がしづらいなどの症状がでてきます。

●対処方法

保湿性薬剤、保湿性の高い洗口液、保湿ジェル、スプレーなどを使用したり、こまめに水分補給するようにします。

唾液の分泌が低下するとむし歯や歯周病が進行しやすくなるので注意しましょう！

薬剤関連顎骨壊死

あごの骨の組織や細胞が局所的に死滅し、骨が腐った状態になることです。

●顎骨壊死を引き起こすことのある薬剤

- 骨吸収抑制薬：ビスフォスフォネート製剤、デノスマブなど（主にがんの骨転移、骨粗しょう症などに用いられる）
- 血管新生阻害薬（抗がん剤の一種）

●上記の薬剤使用経験のある場合、歯を抜くような顎骨に刺激が加わる治療や合わない入れ歯の装着などで顎骨壊死が発生することがあります。

●症状

典型的な症状としては、抜歯後の治りが悪い、骨の露出などがあります。

●対処方法

抜歯などが必要になった場合、骨壊死を予防するため、使用中の薬剤によっては歯科医と医科主治医が協議のうえ休薬してから処置をすることがあります。壊死が起こってしまった場合は、状況に応じて口腔外科で適切な処置を受けましょう。

山形県口腔保健支援センター（山形県健康福祉部がん対策・健康長寿日本一推進課内）☎023－630－2337